

「元気いっぱい・笑顔いっぱい」

特別支援教育統括コーディネーター 加賀谷 勝

「支援はするよりも、減らすことが大事」

8月31日（水）、三種町特別支援教育支援員研修会が開催されました。24名の支援員の先生方が提出した「1学期の振り返り」から、有効と思われる支援を学習面・行動面・信頼関係づくり・支援員の役割に整理し、「今すぐ使える24の支援」として共有するとともに、支援はするよりも、減らすことが大事であることを確認しました。

1 学習面

（1）ほめる・認める

- ①正確に文字を書いたり、計算は自分の力で考えながら、解答を出したときに、ほめるタイミングを見逃さないでそばに近付いてほめた。
- ②できているところをほめ、やる気を起こさせた。
- ③努力や進歩を見逃さずほめたり、不安のときは安心できる言葉を掛けたりした。
- ④担任の先生にほめてもらったとき、すぐほめることで以前よりも落ち着いてきた。



（2）前向きになれる仕掛け

- ⑤「ノートを出してから休み時間」と、次の行動を示して意欲を高めている。
- ⑥やる、やらないではなく、やるべきことの中から選択肢を出すと実行しやすい。
- ⑦答えを教えるのではなく、ヒントを与えてできたときにほめて学習意欲を高めた。
- ⑧今すべきことを確認して、ヒントを与えたり、励ましたりしている。



（3）見通しがもてる工夫

- ⑨教科書に振り仮名をふったり、区切り線を入れたりしたら読みやすくなった。
- ⑩担任の言葉を復唱したりミニボードで手本を示したりすることで遅れず学習できている。
- ⑪全体の指示をもう一度確認したり、友達の動きを見るように声を掛けたりすることで、取りかかりがスムーズになってきた。

2 行動面

- ⑫「次は〇〇するんだね」と指示の繰り返しをすることで、誤った行動が減った。
- ⑬自分の行動を振り返る時間を設けたことで、衝動的な行動が減りトラブルもなくなった。
- ⑭イライラしているとき、どんな言葉でも否定せず、一度受け止めて気持ちを代弁した。
- ⑮別室でクールダウンすると、短い時間で落ち着くことができ、次の活動に取り組めた。
- ⑯注目を集めてわざとよくない行動をする時は、反応しないことでその行動が減った。
- ⑰「どうして」ではなく「どうしたら」と視点を変えたことで、子どもと一緒に行動の予測と対策を考えることができた。

3 信頼関係づくり

- ⑮振り返って声が届く距離にすることで、不安なときは自ら支援員を呼ぶことができた。
- ⑯普段は子どもの近くにいるが、子どもができそうなときは少し離れたところで見守り、様子を見て声掛けをし、必要なときに支援をしている。
- ⑰孤立しないように級友との交流を増やしたり、自分のよさに気付くようにした結果、学級活動に参加し、チームのメンバーにも呼び掛けることができた。
- ⑱たとえ返事がなくても気付いたことを毎日声を掛けたらコミュニケーションをとる機会が増えた。
- ⑳授業中さりげなく傍らに行くことにより、集中できる時間が多くなった。数学は自分から助けを求める場面が増えた。
- ㉑答えが合っていたら一緒に喜び、間違ったときは挑戦したことをほめることで、自信がついてくるのではないかと考えている。



4 支援員の役割

- ㉒学級担任の方針に基づく支援内容を共有するとともに、学級パワーを利用して子どもを迷わせない同じ対応をし、何に困っているのかを考え、プラスの言葉掛けと心に響く言葉掛けをしてチームで支援に取り組んでいきたい。

「子どもに答えを教えるのではなく、ヒントを与え、できたときにほめたり一緒に喜んだりして意欲を高めている」、「子どもが振り返ったときに声が届く距離にいて、子どもができそうなときは静かに見守る、助けを求めたときに必要な支援をしている」など、学級（教科）担任と支援内容を共有しながら実践している「24の支援（裏技）」を紹介しました。

子どもに困難さがあるからが支援のスタートです。支援のゴールは子どもの自立です。自立とは、「子どもが最小の支援で最大の力を発揮すること」です。不要な支援をしていないか、支援を減らすための工夫をしているかを考え、一人でできる状況づくりと支援を減らす指導を積み重ねていくことが自立につながります。

子どもはいろいろな人と出会って、自分にいろいろな特性があることに気付きます。そして、どんな大人と出会うかによって、人生が大きく変わります。子どもが劇的に変わるかもしれない25番目の支援は、周りの大人が温かい言葉を笑顔で掛け続けることです。



とれたて直送便



☆車いすに乗っているある教員のお話（東京都）

積極的な発言も大事だが、五感を澄まし、他者の言葉に耳を傾ける時間が大いなる価値がある。人間関係が安定している学級は、子どもの発言がその場限りで途切れな
い。振り出された言葉はこだまし、面白いようにつながる。授業は教室の人間
関係を示すバロメーターである。

